

7月9日

会派視察報告

関西学術研究都市

けいはんなオープンイノベーションセンター (KICK) の取組について

木津川市と精華町にまたがるけいはんなオープンイノベーションセンター (KICK) を視察。平成15年に「私のしごと館」として開館。平成22年に閉館。平成26年に京都府に所有権が移転。その後、平成27年4月から (公財) 京都産業21による施設管理運営開始。新たな施設活用に向けて多くの企業が注目。随時入所も決まっている状況で、ここを拠点に、イノベーションの波が起こる事を期待しています。しかし、広くて、方向音痴の私は、やはりどこをどう通ったのかわからないようになってしまっていました。



城陽市東部丘陵の活用に向けた取組について

城陽市の都市計画と東部丘陵地の活用に向けた取り組みを調査。

(仮) 新名神開通に伴って、国道24号線の拡幅、JR奈良線複線化などにより、城陽が新たな企業誘致に向けて大きく前進しています。スマートインターチェンジが出来る事によって、車の流れ、人の流れが大きく変わります。又、大型商業施設も視野に入れた取組は、広大な丘陵地を埋戻し、城陽の新たな発展に導く要素をたくさん持っています。

城陽をはじめとした、京都南部の発展につながるためにも、これからの10年が楽しみです。

宇治市の観光施策について

平等院・宇治上神社の改修により、観光客入込数は、昨年度、神社・仏閣については過去最高を記録。しかし、駐車場や宿泊所がなく、課題は多い。観光振興については、セールスの観点で進めてきたが、町おこしの観点での計画とした。文教大学の多くの学生が関わる事によって、活気のある取り組みが増え、facebookなどで情報発信をしている。

鵜飼も人工ふ化の鵜が誕生し、放ち鵜飼を目指しているが、宇治川の増水により実施できない日が多い。天ヶ瀬ダムや瀬田川洗堰の放流量を調整する事によって、中止の日を削減できるのではないかと提案を頂いた。

女性鵜匠の澤木さんから、宇治川鵜飼の歴史的な意義も聴き、素晴らしい借景での鵜飼の発展を望んでいます。

7月10日

奈良県の観光施策について

前日に、宇治市の観光施策を視察したため、比較するような施策もありましたが、歴史文化の奈良県とすれば、富裕層の取り込みを目指されています。奈良県は、関西広域連合に加盟予定であり、奈良をしっかりと推し進めていきたい。との事。他府県との連携については、お互いを紹介しあう事で、今後は、キャッシュバックの仕組みを構築する事も考えていくべきとの事でした。又、翻訳については、歴史や背景を一緒に伝えなければ観光の意味合いが半減するため、通訳についても外国人によるものを進めているとの事でした。



京都大学原子炉実験所

BNCT の現状について

世界最先端の医療技術であるBNCTを視察。BNCTとは中性子とホウ素の反応を利用してがん細胞のみを選択的に破壊する治療法で、有効性と安全性で、従来の放射線治療とは次元の異なる特徴を有する画期的な治療法で、将来のがん治療を担う治療法として有望だそうです。

原子炉と加速器を実際に見て、その技術力の高さに、日本の技術の高さを改めて認識しました。

